

【別紙】

一般社団法人 日本ボクシング連盟 令和4年度 第5回理事会別添資料
2022.12.21(水) 21:00～

会長挨拶：こんばんは。遅い時間にありがとうございます。怪文章が出回り申し訳ありません。今日も審議事項・決議事項ありますが最後までよろしく願いいたします。

1 議事の経過の要領及び議案審議の結果

1) 決議事項

1. パリオリンピック代表選考のための選考試合 (Box off) の詳細について

仲間議長：先日の理事会でアジア選手権の出場者と全日本選手権優勝者とで、ボックスオフをするという形ではある程度まとまっていたかと思います。日程は2月24日から26日という形になっております。実際に試合をするのは25日26日という形で24日から準備していただくという形になるかと思います。男子の世界選手権は5月なので、IBA階級同士で対戦するこの大会の1回戦を世界選手権の予選として取り扱うことができます。しかし、女子の世界選手権がどうやら3月らしいということです。申し込みのことを考えますと、ボックスオフの1回戦であるIBA階級同士の試合を世界選手権代表選考としてしまうと、おそらく申し込みが間に合わないのではないかとということです。女子に関しては世界選手権の選考を先にやらないといけないんじゃないかという案が出ておりました。女子委員会の方でいろいろとお話をしていただいた結果、1月15日にIBA階級の48kg級50kg級52kg級同士で試合をしていただいて、その勝者が世界選手権の代表選手という形になって、2月はオリンピック階級でこの前後の階級の勝者で試合をしていただいて、アジア大会の代表、すなわちオリンピックの国内代表候補として話を進めるという案が上がってきております。まずはこの日程と組み合わせ、スパーリングではなく試合形式で行うということ。ただ男子に関しては、初日にカットすると2日目ができないというリスクもあるので、ヘッドギアを着用してやっていただくという案を出させていただいている。あとはYouTubeで配信することなどを含めまず決を取らせていただきたい。もう一点は、女子は1月にIBA階級同士で世界選手権代表を決める試合があります。このままだと2月にまた同じ組み合わせで1回戦をやるという案になってきており、女子委員会の中で、非常に負担になるんじゃないかということで、1月に行う試合をボックスオフの1回戦の結果として充当させて良いのかということに関して多数決を取らないといけない。まずはこの2月の全体像に関して、男子もヘッドギアを着用するが、公式戦として扱うということに関しては林田理事か大政理事からコメントなどいただければと思います。

林田理事：競技規則の前文にも安全性に関わらない部分であれば、そういった運用ができると書いてあるので構わないと思います。

仲間議長：ありがとうございます。そうであれば、公式戦としてきちんとリザルトを残す形での試合として健診計量をきっちりやって試合をするということについてもご意見いただけたらと思います。

成松理事：女子は1月と2月に選考試合があつて3月試合という流れかとは思いますが、もし私が選手だったら非常にきついなと思います。ただ、何か自分が代案を用意している訳ではないので、何とも言えないのですが選手としては非常に厳しい戦いになってくるなと感じました。

井崎理事：このシステムに関して僕は全然アグリーでいいんですけど1点教えてほしいのが、世界選手権の派遣費用っていうのは日連が持つものですね。オリンピックのアジア予選に関しては、アジア大会なのでJOC予算ですね。世界選手権の方は多分代表になった選手をそのまま派遣するということだと思うんですけど、

確かオリンピック階級は男子7、女子6だと思うんですけど、代表になったら全てJOCは派遣してくれるのか、それともしてくれないのか、それがいつ決まるのかということですが。

仲間議長：現状、JOCがアジア大会にくださっている枠っていうのが男子5枠、女子3枠という形です。男子は7階級あるわけですがけれども、派遣予定は5階級なので充てられている5枠をフルで使ったら、51キロから80kgまで派遣可能という形です。ただし女子に関して3枠しかありません現状では、3枠に対して5階級という状況です。このままだと女子が2枠あふれてしまいます。ただこれは今年の9月に杭州アジア大会があったとされる時に決定された枠ですので、これは見直すという形で話が進んでおります。ただし見直すというのはそれぞれのNFが現状どのような強化体制になって大会に対してどのような選手を派遣できるかという状況に応じて見直すという形になっている。アジア大会に関しましては、大会でメダルが取れる選手を派遣してください。それかアジア大会のJOCとしての条件になります。と言われており、昨年の段階では男子5枠、女子3枠の内示をいただいていた。今回このアジア大会がオリンピック大陸予選になるということが決まりました。男子に関しては各階級2名ですけど、女子に関しては各階級4名がここで決まるという形がIOCから発表されていますので、非常に重要な大会になってきます。その中でJOCから枠くださらないので派遣できないということになってくると非常に困りますので、全日本選手権前とかアジア選手権の前に私の方で一度JOCに交渉に行き、その後のアジア選手権の結果が出たらもう一度という話でしたので、先日私と会長と、本コーチと小山田コーチ4人でJOCの方に交渉に行っていました。結論から申し上げますと、JOCさんも、状況は非常によく理解してくださっていて、ちゃんとオリンピックに繋がる大会でかつ、アジア選手権で非常に結果を出してきているので、増枠についてポジティブに考えてくださっています。この増枠の結果に関しては年内に検討して下さるということを聞いています。我々として提示させていただいたのは、男子5枠固定のままで、女子2枠増の5枠5枠、決まった代表選手をフルで派遣させることができる希望です。理事会までに返事来るんじゃないかなと思ってたんですけど、まだ返事来なかったもので、今日は結果をお伝えすることはできません。役員数に関してはなかなか増やせない厳しい部分もありますが、選手に関しては何とか増やしてくれるのではないかと期待をしています。これに関してはJOCとの口約束なので口頭での説明にさせていただきました。他いかがでしょうか？

木庭副会長：男子はヘッドギアをつけるわけですよね。2日間続きますから。それを試合形式でやる方が世界選手権の最終選考会として相応しい。それと女子は2回ありますけども、世界選手権代表と、パリオリンピックの最終予選を決める一番大事な決定戦です。その階級での勝ち負けがはっきりした方がいいんじゃないかというのが私の意見です。1月も2月も同じ選手同士がやるとしても、体重区分が違うのならこれは私はやるべきじゃないのかなと思います。この階級の一番強い選手を決めるわけですから。期間も1ヶ月空いてますから。

仲間議長：ありがとうございます。あとは厳密に言いますと48kg級の加藤光選手と大和まどか選手という組み合わせが、加藤光選手はアジア選手権代表でしたけど全日本選手権にエントリーして怪我のため欠場してしまったので彼女だけはオリンピック選考会の出場権がないという形になるので、48kg級の試合に関しては1月のみという形になります。では、試合やるかスパーリングでやるかっていうことに関しては、いろいろと委員会内でも議論があったので個別で手を挙げて決定していきたいなと思いますが。

内田会長：前回の世界選手権の選考をするときにMTCでスパーリングでしたと思うんですけど。あのときにマスコミからかなり叩かれたのを覚えていますか。不透明だということで、試合形式でやって、はっきり勝ち負けをつけた方がいいと思います。

井崎理事：ヘッドギアをつけても公式戦と認めてもらえるのであれば僕も試合の方がいいと思います。やっぱりある程度、最低限の演出というか全日本まではいかないまでも、全日本に準ずるような、演出というか、試合の見せ方はした方がいいかなと思ってます。その方が選手にとってもモチベーションになるし、やっぱり世の中が注目すると思うんですよね。大会タイトルとかもちろんつけた方がいいと思います。ボックスオフというものが何なんのか解りにくいので。しっかりタイトルをつけた方がいいし実況も解説も入れた方がいいと思います。テレビに売り込みはしますが、やっぱり厳しいので、日連のYouTubeチャンネル基本でいいかなと思ってます。だからあとはそこのお金をどう捻出するかっていうことはちょっと菊池先生にもお願いをしているところなので、できれば大きな舞台にしてあげた方が、世の中の的にも選手的にもみんなにとっても一番良いことかなと思ってます。

成松理事：もしも私が今現役だったら、そういう風にしていただけると間違いなくモチベーションは上がると感じてます。

仲間議長：マスコミを入れるということは物理的には可能なので準備を進めている状況です。また広報戦略委員会とも相談をさせていただいて、これが正式に決まったら総務の方にも正式依頼をかけて、今進んでいることと。これから追加でやるべきことをまとめさせていただくという感じかと思ってます。

仲間議長：大体意見も出ましたので、他になければ、日程・内容という部分の採決と、ヘッドカード付きだけど試合形式でやるということ。この二つの採決という形でよろしいですかね。

仲間議長：第19回アジア競技大会・パリオリンピック大陸予選男女日本代表第一候補選考会およびIBA男子世界選手権大会の代表選考会として、2月25日・26日に男女のボックスオフを行うことに反対の方は挙手をお願いします。

(反対意見なし)

仲間議長：公式戦として扱うが、男子はヘッドギアを着用するという点について反対の方は挙手をお願いします。

(反対意見なし)

仲間議長：女子の1月15日の世界選手権選考会をボックスオフの1回戦として扱うかという件ですが。

井崎理事：別で行う場合には1月はIBA階級、2月はオリンピック階級ということですね。

仲間議長：はい。

岩崎理事：女子委員会では2回実施するという意見のほうが多数であった。

須佐理事：因みに2月の1回戦は何組ありますか。

仲間議長：52kg級、54kg級、63kg級の3組です。前回の理事会ではオリンピック階級でボックスオフを行うことが決定していたが、世界選手権の選考が絡んできたので少しややこしくなっている。

須佐理事：選手ファースト、選手センタードという考えからすると同じ体重で試合をしたいと思う。

仲間議長：1月の試合結果を2月の1回戦の結果として扱うことに賛成の方は挙手をお願いします。

(1名)

2月に改めてオリンピック階級で試合をすることに賛成の方は挙手をお願いします。

(18名)

仲間議長：賛成多数で2月に改めてオリンピック階級で予選を実施することを議決します。

坂巻副会長：入江選手が引退を表明しているが57kg級はどうするのか。

仲間議長：申し訳ありません。57kg級は入江さんが全日本選手権優勝かつアジア選手権出場という形なので、57kg級の代表権を持つてるのは彼女1人しかいないという状況

にあります。通常上下の階級で試合をするので、この階級がいなくなったとしても前後階級があるという形になるんですが、57 kg級は、単独の階級になってしまってるので57 kg級の代表権を持ってる選手がいなくなっています。女子委員会が上げてきてくださった意見としては、代表を辞退した場合は、第1候補者を審議して決定するという意見が出ているという状況になります。こちらに関してはそれでいいかどうか、全日本選手権第2位の吉田選手がおそらく一番の候補として名前が挙がってくるのではないかと思います。そこに関しては、本来ならば前回の理事会でボックスオフの権利を持ってる方がこの選手ですという形になって、このボックスオフの勝者が日本代表候補になるという話で決めていたので、それと違う話が出てきてしまってるので、これは個別で57 kg級は欠場とするか、代理の選手を選考するかということに関しては、決断ができません。この辺りご意見いかがでしょうか。例えば決勝の日に57 kg級吉田選手と60 kg級でもう決まってる田口選手でスパーリングやってもらい女子強化で話し合っていたのはありなのかなとも思いますけれども。

仲間議長：57 kg級に関しては入江選手が引退という形でオフィシャルにも表明しているという状況ですので、元々決めたボックスオフの該当者がいないので、こちらに関しては何らかの形で女子委員会の方で選考・検討していただくということに賛成の方は挙手をお願いします。
(反対意見なし)

2. 処分に関する規定案に関して

杉崎理事：加盟団体及び地方ブロック連盟の処分に関する基準（案）について、第3条の2号、日連事務局に調査を行わせることができる。という文言がありますが、現状は日連事務局に調査を負わせることは無理だというご意見で、これを削除しております。次に、第4条の2号、すみません。お送りした資料には3分の2で、以上がなかったので、理事会出席理事の3分の2以上の同意、それから総会出席正会員の3分の2以上の同意というところを前回から変更しております。これは10月30日の総会での議論に基づいて変更しております。これが加盟団体および地方ブロック連盟の処分に関する基準案です。

次に、倫理規則に規定する処分に関する基準案です。これは、処分の手続きの第3条の1号についてですが、これは倫理資格委員会の中で、日連事務局に調査を行わせることができるという文言を同じく削除しております。次に、処分の決定については、第4条の1号になりますが、厳重注意、戒告及び謹慎処分（資格停止）は、理事会出席理事の過半数の同意により決定する。2号、除名は理事会出席理事の3分の2以上の同意及び総会出席正会員の3分の2以上の同意というように、これは倫理資格審査委員会の議論の中でこのように変えております。また各処分の種類ですけれども、定款に合わせた形ができていませんでしたので、注意を厳重注意、勧告を戒告、資格停止を謹慎処分、退会を除名という形に修正しております。これが倫理規則に規定する処分に関する基準案の修正案です。

次に倫理規則について、倫理資格、審査委員会の中で修正案が議論されました。こちらについては、第6条について、次の処分をすることができるではなくて、次の処分を行う。とはっきり明記しました。ただし4号の除名については、理事会および総会の決議を要する。というように修正をしております。それぞれ修正案には附則、この規則は、令和何年何月何日から改正施行する。という修正案でございます。私からは以上です。

仲間議長：何か質問やご意見はありますか。これは理事会で決議を取ったあと、倫理規則と倫理規則に規定する処分に関する基準は報告ですけど、加盟団体及び地方ブロック連盟の処分に関する基準は次回の総会での議決が必要ですね。

仲間議長：では、それぞれについて議決を行います。

倫理規則の改定案に反対の方は挙手をお願いします。

(反対意見なし)

倫理規則に規定する処分に関する基準の改定案に反対の方は挙手をお願いします。

(反対意見なし)

加盟団体及び地方ブロック連盟の処分に関する基準に反対の方は挙手をお願いします。

(反対意見なし)

仲間議長：加盟団体及び地方ブロック連盟の処分に関する基準については、総会までに、法律の専門家でもある2名の監事でもう一度目を通していただいてOKもらって、最終決定とさせていただきます。

3. 理事会の定例開催に関して

仲間議長：理事会の定例開催に関してご意見をいただきたい。結局、今回もそれなりの人数が出席できていない状態である。2ヶ月とか3ヶ月間隔にでも、第何曜日の何時からとかという形で決めておいた方が皆さんのスケジュールリングがし易いと思うが。

内田会長：私は決められるとボクシング関係の仕事が急に入ってくるので参加できないことが出てくると思うので直前調整の方が良い。

林田理事：私は審判執行部の調整やっているが、競技規則や審判規程について改定等が度々あるので、月だけでも決めておいてくれたら、その日程に向かって執行部内の協議をまとめることが出来るので調整が取りやすい。

仲間議長：例えば第何曜日とか決めておいて、会長が出られないときは翌週に順延とかの形でも良いと思う。

内田会長：ある程度の時期を決めることであれば大丈夫である。私も1週間前には予定がわかると思う。

坂巻副会長：日本連盟の総会はずっと3月頃にやっていると思う。その日から逆算して考えていかなければならない部分もあると思う。新しく理事になられた方は特に理解できてないと思うので、その辺から具体的に案を出していったら良いのではないかな。

仲間議長：そうですね。ちなみに2月26日に総会をやると思っていたのだが、ボックスオフが予定に入ったので開催できないので、おそらく3月5日になるかと思っている。逆算をしていかないといけない部分が出てくると、次の理事会は2月の5日ぐらいの週には理事会をやらないといけない。なかなか決めるのは難しいので、年間予定をある程度決めて、定例理事会が年4回あって、総会の前に2回プラスとかという形があると皆さんの予定が立てやすいかなとは思っている。この件に関しては、LINEでの書面で、議論も含めてさせていただきます。話があまりまとまらないというか、多様な意見があるので継続審議とさせていただきます。臨時総会は2月26日を考えていたが、ボックスオフが入ったのでちょっと難しくなる。その結果の発表まで含めて、3月の第1週の開催が妥当と考えている。そうすると、大体その1ヶ月前ぐらいに総会に向けての理事会という形なので、2月の第1週、遅くとも第2週の前半にはやる必要が出てくるかと考えている。日程に関しては、年明けぐらいまでには決定をして早めにシェアをさせていただく。

※(決議せず：継続審議とする。)

2) 報告事項

4. 女子委員会及びアスリート委員会に提出された意見書に関して

- 仲間議長：ボックスオフに関して、63kgの女子代表選手だった鬼頭さんから「第19回アジア競技大会における派遣選手の選考に関する質問書」が女子強化委員会およびアスリート委員会に提出されている。この案件に関しては、理事会でどう取り扱うべきかについて、提出された女子委員会とアスリート委員会で判断していただく。理事会審議事項ではなく、報告事項で上がってきているので御一読いただくのが良いかと思う。この件について、女子強化委員会とアスリート委員会の担当理事から簡単にコメントしていただく。
- 岩崎理事：女子委員会としては3月19日にこの件について女子委員会と、アスリート委員会の成松理事を含めて打ち合わせをした。結論としては、いろいろ調べたり、皆さんの意見聞いたりした中で、60キロで出場したいというところは認められないということである。回答書の方は今作成している段階である。
- 成松理事：自分のところにも鬼頭選手から相談はありましたが、今回アスリート委員としての意見ではなく個人の問題、個人と強化委員会で発生した問題ということで、アスリート委員会でこの問題は扱わないということで、こういうことがありましたという共有だけさせて貰った。自分もいろいろと聞いたり、事実なのかどうかとか調べたりしたが、部分的にこの主張はどうなのっていうところもあり全体的に彼女の主張は肯定できないというふうに私の方から主張させていただいた。
- 仲間議長：この案件については理事に共有をしたが、女子委員会で回答書を作成いただき、それを共有して欲しい。
- 仲間議長：もう一つリングシューズについて話があるということだが。
- 成松理事：12月19日にアスリート委員会のミーティングをした。二つの意見が出ている。まず一つ目は、選手に情報が回ってくるが遅いので周知徹底して欲しいとの意見が出ている。合宿や大会、強化委員会で決まったことをしっかり選手に伝えて情報の共有をして欲しいという意見が出ている。二つ目が、国際大会で使うリングシューズについてです。スポンサーであるミズノのシューズを履くことになっているが、いつも大会間近にシューズが届くことが多いのでシューズを慣らす時間がなく、場合によってはミズノのシューズを履いていない選手もいるみたいである。これを防ぐためにも、強化指定選手は年に一度、シューズをオーダーできるようにしてはどうか？というような意見が出ている。
- 仲間議長：情報共有に関しては、決まったことに関しては文書で何月何日付ということで強化委員長名とかで、該当選手と指導者の両方に伝わるシステムを強化委員会の方から提案していただくという形が良いかと思う。シューズのことにに関しては、ミズノと話さないといけない部分があるので、事務局の及川さんに確認するという形で良いか？どういう形でシューズが来てて、その時期がどうなるとかという話とかがあると思うが。
- 成松理事：シューズに関して、ミズノの折田さんと以前話しをしたのだが、組織からの注文がいつも結構ギリギリになっていることが多いらしい。だからミズノとしては既製品のリングシューズしか渡せないということを知った。大会ギリギリになってシューズが届いても、結局足が慣れないから自分が持っているリングシューズを使用する問題が起きているのだと思う。それを防ぐためにも、先ほど言ったような案で年に一回オーダーして試合用のシューズを作るとするのが一番良いのではないかと思う
- 内田会長：成松理事の意見は他の選手から聞いたことがある。シューズに関しては、すごくナーバスな問題で、日頃使ってるものを使いたいですという意見を受けているので私も成松理事の意見に賛成である。

5. IBA 総会報告

内田会長：12月8日から12日までIBAの総会に行ってきた。そして新しい日本が開発した審判システムを総会の方で発表させて貰った。IBAは新しい事務局長になっていたが、その事務局長とメーカーが新しい採点システムを作ったと言っていたが、今現状使われているものと何ら変わらないものだった。行った次の日にウマル会長と話をし、会長の方が興味を持っていただいて、プレゼンをしてくださいということで決定したわけだが、次の日の夜のウェルカムパーティーみたいなものがあり、ウマル会長が帰られた後にその事務局長が日本はプレゼンをさせないよ、してはダメだよという邪魔が入った。一旦、私もシンコーチも垣内さんも善理くんも諦めていたんだが、次の日の朝ロビーでウマル会長にプレゼンなくなって残念だよという話をしたら、プレゼンはなくなってないよとのことで、その事務局長が勝手に日本連盟の提案を破棄したということがわかった。急遽またプレゼンが入ってその場でプレゼンさせていただいた。ビデオとかで皆さん見られたと思うが、やっぱり世界は日本のシステムにすごく興味を抱いてくれている。ウマル会長も日本のシステムに対してすごく評価していただいて、最終的には向こうの審判部長とあと、IOCの方に今のIBAの現状を報告する係りの方がおられて、その方と日本連盟とでこのまま開発を続けて行ってください、是非いいものを作ってくださいということで、最終的にはウマル会長から日本の応援をしますよというような言葉もいただいている。またいろいろ進んでいくとは思いますが、やっぱりIBAも昔からいる人というか、その場その場の利権があるのかちょっとわからないが、新しいものを入れたくないという方も多みたいである。非常に難しい状態だったが、今回はウマル会長のおかげもあり、シンコーチのおかげでもあるが、うまく日本のシステムを採用していく方向で話がまとまったと思う。あと、日本に対してはすごく協力的にこれからもやっていきたいということで、5月にコーチの試験件も日本で開催してくれる約束はしていただいたが、まだはっきりどうなるのかわからないが、そういう約束をしてもらって今回は帰ってきた。

6. その他

◎高体連より

篠原理事：令和6年度に女子のオープン競技の開催が決まったという話は、今年6月の理事会でお話をさせていただいた。そのときにも申し上げたが、できれば令和5年度の北海道総体でプレ大会としてエキシビジョンマッチをできないかということで、全国高体連の方に申請をした。全国高体連の方からは、前年度にもう一度承認されている形を覆しての協議の改正は難しいということもあったが、部長の小滝先生が一生懸命問い合わせを送り返して何とかこぎつけていくことができた。先月11月の理事会でオープン競技が認められ、階級は令和6年度に行われるインターハイの特別階級の3階級。令和6年度には、6県以上あるブロックに関してはブロック代表2名であるが、今回の令和5年度の北海道総体においては各ブロック1名ずつという状況であり、出場枠に変更があるが、プレ大会として行うことができるようになった。令和6年度と同じ形にできなかった理由としては、先ほど申し上げたとおり、一度承認されている大会の状態をなるべく崩すことができなかった。人数を少し減らしてでも何とか開催したいということのアプローチをしながら運んだものですから、そんなふうにはせざるを得なかったというような状況がある。このことに関しては、総務委員会を通して日本連盟に報告している。

安川理事：平成令和6年度から正式に3階級ということだが、階級はどの階級なのか？

篠原理事：6月の理事会の方でも申し上げたが、階級の分け方に関してはインターハイ特殊

な特別な階級になっている。割が5キロ刻みになっている。45キロ以下、50キロから55キロ、55から60キロという状況である。ちなみに何でこの階級にしたかというのは、なるべく参加者全員がその階級のカテゴリーの中に属しているという状況が必要だったということである。認められた階級が3階級という限られた階級だったので、そのような特別な階級となっている。

安川理事：今後もIBAの規則でもない、日連の規則でもない階級で進んでいくということであるか。

篠原理事：そのようになる。階級を刻んで増やすということになると、男子の階級を減らさざるを得ないとか、いろんな問題も生じて来る。5キロ刻みになっているが、大体50キロ、55キロ、60キロのところに淘汰していくと思う。建前的に全員がどこかのカテゴリーに属しているということ而建前として必要としてこのような形になった。今後もこれで進めていく予定である。

安川理事：エリート階級の方では、かなり階級でいろいろ問題があるということで、その点も踏まえて、IBA規則である階級や日連規則である階級をそのまま採用した方が今後の混乱はないのではないかと思ったので、ご意見させていただきます。

林田理事：これは高体連の理事会で決まったという報告ということなんですが、エキシビジョンマッチについて日連としての審議とかはないのか。まず、こういったエキシビジョンマッチをやるとか、女子が参加することについては大賛成であるが、その階級の5キロ幅の運用について執行部で議論させていただいた。5キロ幅の運用であると、例えばピンの子が43キロの選手は40キロまで増量して、例えば上だったらフライ級にバンタムとかフェザー級の選手が減量して出てくるようなことになると、かなり体格の違う選手の試合があったりする可能性があるんで、一つは選手の安全を一番に考えるというところではその運用について執行部としては反対をしたいと思う。いかがでしょうか？

篠原理事：開催できる階級が3階級という限られている階級だったというのがある。何級と何級という現存する階級に縛ってしまうと、どうしてもその出たいがために減量してしまうとか、本来自分の階級ではないところでやるっていう選手が出てきてしまう。誰が聞いても一応その出場できる階級内に普段の体重があるというような建前を今回は大事にした。実際には出るためには50キロ、55キロ、60キロというところに淘汰されていくのではないのかなとは思っている。あともう一つ、5キロでもここを強行したことは男子に比べるとちょっと女子の力がないというのが、KOが男子に比べると少ないというところも一つあって、5キロ刻みというのをそのまま高体連に提案して高体連の方から認めていただいたような次第である。

内田会長：林田理事、LINEで見たが執行部の案ができていましたね。それも3階級でしたよね。

林田理事：執行部で考えているのは、この3階級については競技規則通りの階級でライトフライ級45キロから48キロ、バンタム級で51キロから54キロ、ライト級の57キロからの60キロで運用しすれば、ピン級、フライ級、フェザー級、ライトウェルター級の幅もかなり調整がしやすいと考えるのでこれを提案したい。

内田会長：篠原理事、今から変えるというのは難しいのか？

篠原理事：現段階では難しいと思う。令和6年までには難しいと思う。今申請しているのが令和6年までの承認申請をいただいているので、この時点で変えらなければ令和7年度からという形になる。

林田理事：令和6年の階級はどの階級だったか？

篠原理事：令和6年の階級は先ほど申し上げたように5キロ刻みの階級である。

林田理事：5キロ幅の階級について、ちょっと審判部としてその情報が欲しかった。

仲間議長：基本的には競技規則にのっとってという話で、日連内での議論が全然ない中で、高体連単体でという話は多分審判部としては供与しかねるという話になるのはおっしゃる通りかなと思う。これは決定の前にこういう案が出ているのでと共有し

たり話ができたりするとよかったかなと思う。そのためにも他専門部から理事に入ってきていただけるという部分もある。これをやるというこの細かいその体重の分け方とかそういった形の要綱が現行できているわけであれば、何かしらこの意見をしてということもできそうな気がするがどうか？その三つの階級をやるという形は、別にそこに関して何か大きく変えてとかいう話をしているわけではない。

篠原理事：もう一度部長らと話し合いながらやっていく。今の話だと、現存のライトフライ級バンタム級ライト級の刻みで、この階級で実施した方が良いという話をすれば良いか。

林田理事：そうですね。審判部としては、競技規則というものをすごく大事にして欲しい気持ちがある。今高体連の方が考えている5キロ刻みの幅の階級を考えるのであれば、この競技規則の3階級で行えばある程度調整が出来るのではないかという提案です。

仲間議長：林田理事、例えば先ほどのIBA階級と、オリンピック階級があるが、なるべくそこに寄せるのであればオリンピック階級にちょっと寄せると一つのアイデアかなという気もしたが。

林田理事：そういう話もあった。

仲間議長：高体連専門部と話す前に篠原理事が審判部と話していただき、審判部からの提を持って行くのが良いのではないか。

相馬理事：林田副部長に補足しますと、競技規則に関わることで審判部の知らないところで何か決まったりすることはおかしいと思う。基本、競技規則に関わるのであれば、審判部に相談をして欲しい。最初から相談してきちんと進めていけば後から変えることはないのかなと思う。オリンピック階級に合わせる話は、オリンピック階級は枠の関係で男女の数が変わってきて、階級が変わってきているので別に合わせることはないと思う。従来の階級でできるものは、そのままやっていけばいいと思う。

仲間議長：審判部と話をした上で、専門部の中で話を揉んでいただき進めていただけたらと思う。

篠原理事：メモするので、何キロ級、何キロ級、何キロ級の刻みを教えて欲しい。

仲間議長：篠原理事、今ここで話して、決めて持って行って欲しいことが林田理事、相馬理事の希望ではない。審判部を含めた上できちんと話をして、その話を専門部に持って行ってということ。今ここで話したことを持って行くことではない。審判は審判部で話をした上で提案をしたいという形だと思うので、そういう理解でよろしいか林田理事。

林田理事：一応議論というか検討をさせていただく場を設けていただければと思う。

篠原理事：今回日連に提出した文章というのを、審判部の方にも6月に出した理事会で出した資料も含めてお渡ししたいと思う。もう一度階級の刻みをお願いしたい。

林田理事：現時点で執行部での提案で良いか。ライトフライ級45キロから48キロ、バンタム級51キロから54キロ、ライト級57キロから60キロ、いわゆる競技規則に書いてある3階級3キロ刻みの階級で運用すれば体格の差のない安全性の高い試合として統制が効くのかなという話になっている。

以上